

グローバルヘルス合同大会2023
ワークショップ

大会3日目

11月26日
(日)

健康危機下における 外国人支援から考える保健医療のDX ～看護はどうDXを活用していくのか～

9:00～10:00 東京大学本郷キャンパス
医1号館 講堂NC309(第5会場)

座長: 那須ダグバ潤子(京都橘大学)・藤田さやか(兵庫県立大学地域ケア開発研究所)
後援: 国際地域看護研究会



NPOシェアが行う外国人の健康支援活動から考えるICT～医療通訳場面を中心に～

演者1 山本 裕子 氏

(特定非営利活動法人シェア=国際保健協力市民の会 在日外国人支援事業担当)
保健師、看護師。兵庫県立大学大学院博士前期課程(修士)看護学研究科
国際地域看護学専攻修了。病院勤務や山谷地域での訪問看護等を経験
後、青年海外協力隊員としてホンジュラスで母子保健活動や保健ボラン
ティア育成等に関わる。2009年より現職。

健康危機管理下における日本在住外国人への情報提供: ツールの開発と試行的実施

演者2 谷口 麻希 氏

(東京医科歯科大学)

2000年聖路加看護大学(現、聖路加国際大学)看護学部卒業。保健所保
健師、NGO勤務、地域看護や国際看護の教員を経て、現職(東京医科歯
科大学精神保健看護学分野)。専門は、公衆衛生、精神保健、社会疫学。



国内外の緊急支援から開発するグローバルデジタル保健室の試み

演者3 神原 咲子 氏

(神戸市看護大学看護学部 災害・国際看護学分野 教授、
一般社団法人 EpiNurse代表理事、日本災害看護学会理事、日本学術会
議 連携会員)

平成13年神戸大学卒、平成19年12月岡山大学大学院医歯学総合研究科
国際環境科学講座公衆衛生学博士課程修了。国内外での防災減災に関わ
るDX に取り組んでいる。



健康危機下における外国人支援から考える保健医療の DX

-看護はどう DX を活用していくのか-

内閣府の科学技術基本計画（2016）において、我が国が目指すべき**人間中心の未来社会**の姿として提唱された **Society5.0** が推進される中、保健医療の提供体制にも価値の転換と多様化が求められています。Covid-19 禍においては、言語的な障壁や多様な生活背景を持つ在留外国人の健康ニーズに迅速かつ適切に対応するために、SNS を活用したリアルタイム性のある情報収集と健康支援システムの活用が図られました。

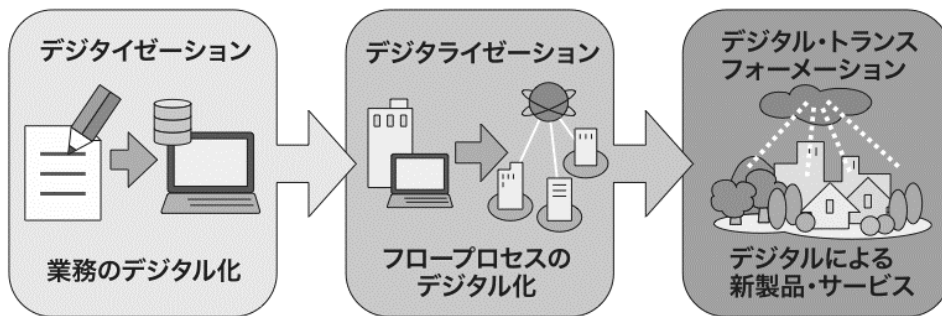
ワークショップ参加者には、スマホやタブレットなどを使用して、オンライン上で意見を収集します。それらを集約して可視化しながら、将来の健康危機・人道危機を見据えた保健医療の DX 化について検討する機会にしたいと考えています。



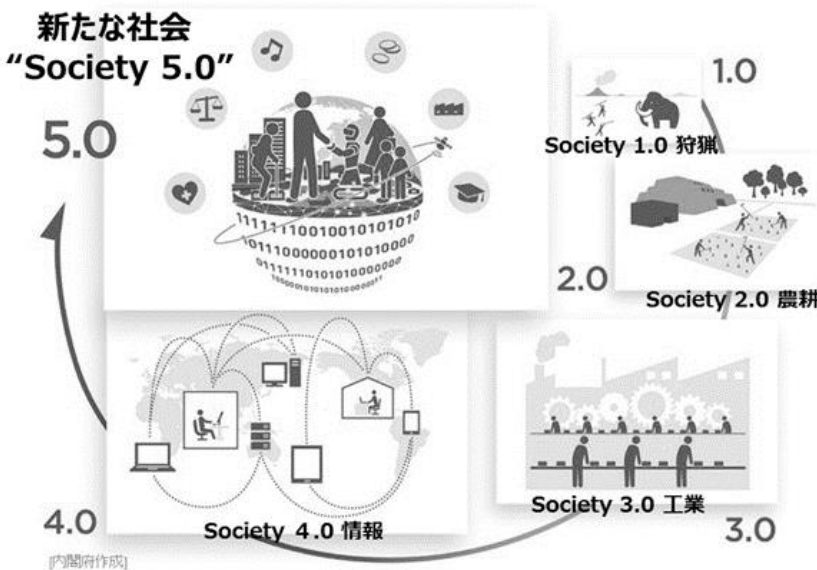
QR コードを読み込んでください

◆用語の整理◆

デジタルトランスフォーメーションは「Digital Transformation」と表記されます。「Transformation」は「X-formation」と表記されるため、頭文字を取って「DX」と略されるようになりました。



総務省ホームページ: https://www.soumu.go.jp/hakusho-kids/use/live/live_06.html



Society 5.0

狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもので、**第5期科学技術基本計画**において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

内閣府ホームページ: https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/